

**みやぎNPO夢ファンド(A)人材育成支援プログラム
平成18年度助成事業 最終報告書**

書式4

平成19年 4月 26日

団体名	特定非営利活動法人 おひさまくらぶ
事業名	新介護保険制度に伴う高齢者福祉・介護サービス勉強会
連絡担当者お名前(ふりがな)	近藤 明美(こんどうあけみ)
担当者 電話	022-342-6027
F A X	022-342-6028
E-Mail	
助成金を使って行った研修事業について、具体的にご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)	
1 新介護保険制度についての勉強会 (1)開催月日 平成18年7月11日 (2)会 場 おひさまくらぶ高森 (3)講 師 なし(勉強会) (4)参加者 おひさまくらぶ職員 10人 (5)内 容 介護保険制度の改正点を把握し、事業所がどのように対応するべきかを改めて検討した。	
2 リスクマネジメント研修会 (1)開催月日 平成18年11月9日 (2)会 場 おひさまくらぶ高森 (3)講 師 なし(勉強会) (4)参加者 おひさまくらぶ職員 8人 (5)内 容 リーダーが準備した事例を用いて、事故の予防や解決の方法について検討した。	
3 認知症高齢者のリスクマネジメント (1)開催月日 平成18年12月26日 (2)会 場 おひさまくらぶ高森 (3)講 師 武田 賢作氏(仙台市認知症介護指導者) (4)参加者 おひさまくらぶ職員 9人 (5)内 容 事故が起こるしくみやリスクマネジメントの概念について講義を受け理解を深める。さらに、事例やグループワークを通して、介護の現場における予防や解決方法について再度検討した。	

助成金を使って行った研修事業について、ご記入ください。(続き)

4 ターミナルケア勉強会

- (1)開催月日 平成19年1月30日
(2)会場 おひさまくらぶ高森
(3)講師 川島 孝一郎氏(仙台往診クリニック)
(4)参加者 おひさまくらぶ職員 10人
他事業所職員 3人
(5)内容 医師である講師の講義によって、「死」とはどんなものなのか、どんな最後があり、どんな看取り方があるのかを学んだ。本人と家族にとって、よい最後の時間を過ごせるようにするにはどうすればよいかを話し合うことができた。

5 「いつまでも この町で 自分らしく 暮らし続けるために」

- (1)開催月日 平成19年3月26日
平成19年3月27日
*多くの人に参加できるよう2日にわけて講演を行ったもの
(2)会場 おひさまくらぶ高森
仙台市文学館
(3)講師 西田 京子氏(NPO法人たすけあい佐賀 代表)
吉村 香代子氏(NPO法人たすけあい佐賀 副代表)
(4)参加者 おひさまくらぶ職員 10人
おひさまくらぶ職員 5人
他事業所職員 15人
一般参加者 2人
(5)内容 NPO法人たすけあい佐賀が行っている高齢者支援、障害者支援、子育て支援等さまざまな活動と、その経緯についての講演。一人一人のニーズに応え続けることで輪が広がるという講師の体験をとおして、地域に働きかけ助け合いの輪を広げていくことを学んだ。また看取りの経験談から心構えの重要性を学んだ。

当初の成果目標はどの程度達成できましたか。当初目標と比較して記入してください。

申請書に記載した成果目標

勉強会を一般市民にも開放し、高齢者福祉や高齢者介護に興味を持っている人が集まるよう、企てる。そして、共に活動してくれないか誘致する。

勉強会を通して、スタッフ全員に初心にかえってもらい、より良いサービスを行う意識の向上に期待する。

スタッフ全員で学ぶことにより、一定水準以上の知識が獲得できるだけでなく、共通した知識を持つことができる。したがって、今まで以上のチームワークや団結力が付く

目標の達成度・団体に与えた効果

残念ながら一般の方への勉強会の開放は実現しなかったが、同業の仲間や利用者の家族を対象にしたものは実施できた。問題意識を共有でき、ともに福祉や介護の世界で努力していこうという思いを分かち合えた。

- ・ 新介護保険制度についての共通した知識を持つことができた。
- ・ 介護予防の取り組み方等今後どのようなサービスを提供していくべきか職員ほぼ全員で考え、方向を決めることができた。
- ・ 起こりうる事故についての認識を共有することができた。
- ・ 個々の事故について予防策や対応等を

<p>申請書に記載した成果目標（続き）</p> <p>現代社会に合ったサービスの提供を行い、「その人らしくいつまでも」住み慣れた地域で生活できるよう、これからも支援して行きたい。</p>	<p>目標の達成度・団体に与えた効果（続き） 検討することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々のコミュニケーション能力を高めることにより、チームケアの連携が向上し、その結果としてリスクが軽減されることを学んだ。 <p>今回の一連の勉強会を通して、現代社会の「自分たちの望む生き方をしたい」という思いの延長に、私達の活動があるのだということが実感できた。引き続き自分たちの活動に自信を持って取り組んでいける活力を得たことで、サービスの向上やより良い支援を提供できると思える。</p>
<p>達成できない部分があった場合には、 考えられる原因や、解決に向けて必要なことをお書きください。</p> <p>今回、達成できなかった部分のほかに、新たな課題を抱えることとなった。活動期間内に利用者の最期に立ち会う経験をしたことで、ターミナルケアや看取りの勉強不足を実感したのである。まだ先のことと考えていたこの経験を機に、職員全員で勉強する機会を作ることが必要であることに気づかされた。</p> <p>また、一般市民、特に私たちの事業所がある地域の方々に活動の内容を理解していただき、賛同していただくためには勉強会の開催ももちろん必要だが、まずはチラシ等を配布して地道な下地作りから始めなければならないと痛感した。</p> <p>今回の事業を、今後どのように展開していきますか また、その際に必要なものは何ですか</p> <p>ターミナルケアや看取りの知識の必要性を今回の活動を通して実感した。引き続き勉強会等を実施していきたい。家族や医療との連携をとりながら、「死」を自然なものとして受け取り、実際の現場で温かく穏やかに看取れるようになることが今後の私達の目標となった。</p> <p>また、地域の理解を得、活動に参加してくれる仲間作りのため、効率的なチラシの作成・配布を行っていきたい。</p>	

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	150,000円	150,000円	

参加費（一般市民のみ @500円）	37,500円	0円	5回×15名分
自費	12,500円	109,020円	
合計	200,000円	259,020円	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
講師謝金（@10,000円）	40,000円	10,000円	3 武田氏1名分
講師謝金（@30,000円）	30,000円	90,000円	4 川島氏 5 西田氏 吉村氏3名分
講師交通費	5,000円	0円	
講師交通費・宿泊費（@51,910円）	60,000円	103,820円	5 西田氏 吉村氏2名分
会場費（@10,000円）	6,000円	10,000円	5 仙台文学館 1会場分
通信費	5,000円	7,000円	電話代など
印刷費	5,000円	3,000円	資料作成のため
事務諸経費	19,000円	3,000円	
事務消耗品費	10,000円	7,000円	フィルム代 現像代など
人件費（@700円）	20,000円	25,200円	8H×4.5日1名分
合計	200,000円	259,020円	